

プログラムの流れ

入門編講座

企画実践編

企画実践編の受講者は基礎講座として受講

2024年

8月

オンライン講座① 8/27(水) 19:30～21:30
合理的配慮ってどんなもの？
舞台芸術をひらくための考え方

講師 飯野由里子 東京大学大学院 教育学研究科附属
バリアフリー教育開発研究センター 特任教授

オンライン説明会 8/13(土) 20:00～21:00

アーカイブ視聴



9月

上映会 9/27(土) 神戸文化ホール (交流プログラム)
旅する身体 ～ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi～
障害と創作について考えるきっかけとなる
ドキュメンタリー映画鑑賞と交流プログラム

9/8(日) 24:00 申し込み締切

オリエンテーション (オンライン) 9/25(水) 19:30～21:30

キックオフ

神戸で行われる上映会に参加します。
上映会前に対面によるキックオフミーティングを実施。

10月

オンライン講座② 10/8(土) 19:30～21:30 (後日アーカイブ配信あり)

芸術文化の価値とは？
アートとケアの可能性を考える

講師 中村美亜 九州大学大学院 芸術工学研究院 教授

ゲスト アサダワタル 文化活動家

オンライン講座③ 10/22(土) 19:30～21:30 (後日アーカイブ配信あり)

芸術で何が出来る？ 福祉施設の実践

登場 久保田翠 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 理事長
樋口龍二 NPO法人まる 代表理事
山口光 認定特定非営利活動法人ホバイ事務局・
パフォーミングアーツ担当
進行 長津結一郎 九州大学大学院芸術工学研究院准教授

グループワーク/企画検討

3～4人組のチームにわかれ、グループワークを行います。障害のある人や支援者、様々な事業を実践してきた企画監修者からのフィードバックを受け、企画をブラッシュアップしていきます。

10月下旬 ユーザーヒアリング研修
障害のある人や支援者とともに事業企画を考える様子を見学するオンライン研修。

11月～12月 ユーザーヒアリング実践
グループワークでそれぞれ検討する企画について、障害のある人や支援者からフィードバックをもらうオンラインミーティング。

12/23(日) 中間発表
各チームの中間プレゼンテーション。企画監修者や他の受講生からのフィードバックを受けて、企画発表に向けて企画をブラッシュアップします。

1/14(土) 企画発表
プレゼンテーション準備

視察研修

さまざまなアプローチで地域と繋がり、舞台芸術をひらく活動を行う福祉施設や劇場を視察

11/1(日) 特定非営利法人
クリエイティブサポートレッツ (静岡)

11/16(土) DanceBox(兵庫)

12/3(日) 工房まる(福岡)
ゲスト 添嶋麻里 (公財)アクロス福岡 事業部 ディレクター

企画発表会 1/27(日) 中央区文化センター(神戸)

全チームが一室に会し、プレゼンテーションを実施！
企画監修者だけでなく、ゲストからもフィードバックをもらいます。

11月

オンライン講座④ 11/5(火) 19:30～21:30 (後日アーカイブ配信あり)

劇場に来てもらうには？
地域とつながる実践

登場 恵志美奈子 世田谷パブリックシアター劇場部学芸チーフ
吉川剛史 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 事業制作部
田澤瑞季 株式会社precog/
まるっとみんなで映画祭in KARUIZAWA 事務局

12月

2025年

1月

障害のある人と考える 舞台芸術表現と 鑑賞のための講座 2024

文化庁委託事業 令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業

入門編

本講座は劇場・文化施設のスタッフ、制作者やアーティストなど、
障害の有無に関わらず舞台芸術に携わる
全ての人たちと共に学び、舞台芸術の広げ方を考える講座です。

企画実践編

障害のある人との創作現場で大切な視点を学ぶ入門編と、
芸術と福祉を通じた地域社会のあり方について学び企画制作する企画実践編の2部門で受講生を募集します。
これからの未来へつづく舞台芸術の現場を共にひらいていくきっかけとなれば願います。
みなさまのご応募をお待ちしています。

詳細・プログラムの最新情報は
公式サイトをCHECK



お問合せ(事務局)
drifchticket@gmail.com

文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

主催 | 文化庁、一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL

共催 | 神戸文化ホール(指定管理者:公益財団法人 神戸市民文化振興財団)

企画 | 一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL

制作運営 | 株式会社precog

広報 | THEATRE for ALL

協力 | TBS

入門編

上映会とオンライン講座によって、障害のある人との創作現場で必要な視点や考え方について学ぶ基礎講座。

料金 | 通し受講券1,500円
(オンライン講座4回、上映会@神戸参加)

オンライン講座 1回券500円

上映会 参加券1,000円

オンライン講座 (全4回)

障害と社会にまつわる基礎的な知識から、舞台芸術分野と福祉分野の協働事例、地域での共生社会実現を目指す取り組み事例を知り、これからの舞台芸術の創作・発表・鑑賞に必要な考え方を学びます。

アクセシビリティ | 手話通訳、UDトークによる文字支援

※オンライン講座第2～4回はアーカイブ動画配信予定。第1回のアーカイブ動画配信は行いません。

入門編 通し受講券 申込み

下記QRよりお申し込みください



8/27 火
19:30～21:30

合理的配慮ってどんなもの？ 舞台芸術をひらくための考え方

講師 | 飯野 由里子 東京大学大学院教育学研究科附属
バリアフリー教育開発研究センター特任教授

進行 | 兵藤 茉衣 株式会社precog

2024年4月より民間事業者に対する合理的配慮の提供が義務化されました。合理的配慮は何のために、どのようなプロセスで提供されるものなのでしょう？ 劇場や文化施設、公演やイベント等で、適切に合理的配慮を提供するうえで必要な2つの考え方—「社会的障壁(バリア)」と「障害の社会モデル」について、具体的な実践例とともに学びます。

飯野 由里子 lino Yuriko
専門はジェンダー、セクシュアリティ、ディスアビリティ理論。ジェンダーと多様性をつなぐフェミニズム自主ゼミナール(ふにみ・ゼミ)運営委員。OTD(組織変革のためのダイバーシティ)普及協会運営委員。

10/8 火
19:30～21:30

芸術文化の価値とは？ アートとケアの可能性を考える

講師 | 中村 美亜 九州大学大学院 芸術工学研究院 教授

ゲスト | アサダワタル 文化活動家

進行 | 篠田 菜 株式会社precog

障害のある人・子ども・シニア・日本語を母語としない人たち—多様な人々が芸術活動に参加する取り組みが注目を集めています。そもそも、なぜ、このような取り組みが行われているのでしょうか？ 芸術と福祉の両分野を横断する取り組み事例とともに、芸術と福祉の親和性や両分野がまじわることで生まれる可能性について考えます。

中村 美亜 Mia Nakamura
専門は文化政策・アートマネジメント研究。近年は芸術文化の価値と評価、社会包摂、認知症の人との共創的アートに関する実践的研究を行っている。訳書に「芸術文化の価値とは何か」(水曜社、2022年)、編著に「文化事業の評価ハンドブック」(水曜社、2021年)、単著に「音楽をひろく」(水声社、2013年)など。

アサダワタル Wataru Asada
アーティスト、文筆家、近畿大学文芸学部専任講師、本と音楽の店(とく)オーナー、地域、ケア現場、復興団地等に文化的な方法で関わり、そこに居る人たちと場づくりを行う。これらの経験から得た視点や関きを本や音楽を通じて発表。博士(学術)。著書「住み開き」(筑摩書房)、「想起の音楽」(水曜社)、CD「福島ソングスケイプ」でグッドデザイン賞受賞他。
写真撮影:平林己 提供:まえとあと

10/22 火
19:30～21:30

芸術で何ができる？ 福祉施設の実践

登壇 | 久保田 翠 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 理事長

樋口 龍二 NPO法人まる代表理事

山口 光 認定特定非営利活動法人ポパイ事務局・パフォーミングアーツ担当

進行 | 長津 結一郎 九州大学大学院芸術工学研究院准教授

福祉施設でも文化芸術を取り入れた様々な取り組みが実践されています。舞台芸術活動、地域の劇場・文化施設や地域とのネットワークのつくり方などを知り、芸術文化で何ができるのか、舞台芸術の可能性について考えます。

久保田 翠 Midori Kubota
東京芸術大学大学院美術研究科修了。長男の出生をきっかけに2000年クリエイティブサポートレッツ設立。2010年障害福祉事業所アルス・ノヴァ開所。2018年たけし文化センター連尺町建設。2022年ちまた公民館開設。2017年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2022年度静岡県文化奨励賞受賞。

樋口龍二 Ryuji Higuchi
1974年生まれ。1998年、染色会社在職中に「工房まる」と出会い、表現力に魅了され即転職。2007年に法人設立と同時に代表理事就任。表現作品などを社会にアウトプットする企画運営や、サポートする人材育成としてセミナーやワークショップ等を九州/福岡を中心に各地で開催している。2014年に「福岡県文化賞(社会部門)」を受賞。

山口 光 Hikaru Yamaguchi
認定特定非営利活動法人ポパイ事務局・パフォーミングアーツ担当、歌手、パフォーマー。障がいのある人とのパフォーマンスやそのサポート、他団体や地域と連携したアートプロジェクトのオーガニズを行なっている。ポパイの外では、ちいさなひとたちに音楽を届ける音楽ユニットジララのうた担当をはじめバンドのボーカルを務め、ミュージシャン、ダンサーなど様々なアーティストとの共演多数。

11/5 火
19:30～21:30

劇場に来てもらうには？ 地域とつながる実践

登壇 | 恵志 美奈子 世田谷パブリックシアター 劇場部学芸チーフ

吉川 剛史 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 事業制作部

田澤 瑞稀 株式会社precog / まるっとみんなで映画祭inKARUIZAWA 事務局

進行 | 兵藤 茉衣 株式会社precog

公共劇場・民間劇場・芸術団体で実施されている、地域との関係の結び方や、劇場公演やイベントへの障害当事者の呼び込み方について、障害のある方と取り組み事業の具体的な実践について伺いながら、劇場と舞台芸術のひらき方について考えます。

恵志 美奈子 Minako Eshi
東南アジアとの国際共同制作プログラムや人材育成プログラム等を担当後、世田谷パブリックシアターの市民参画演劇プロジェクト「地域の物語」を担当。2021年度からは世田谷区下馬地区の福祉法人や町内会等と連携し、地元コミュニティの多様性や他者を知ることを目的にしたアートフェスティバル「極楽フェス」を都管下馬アパートで開始。

吉川 剛史 Tsuyoshii Yoshikawa
社会人を経て、座・高円寺「劇場創造アカデミー」に入学。社会と演劇、地域と劇場の関係性を考え制作や劇場運営について学び、2013年より、愛知県豊橋市の公共劇場「穂の国とよはし芸術劇場 PLAT」で勤務。「大道芸inとよはし」「ワークショップファシリテーター養成講座」「プラットフォームが学校へ。」「市民と創造する演劇」「舞台手話通訳付き公演「楽屋」」「視覚・聴覚に障がいのある方対象のPLAT劇場ツアー」などを担当。

田澤瑞季 Mizuki Tazawa
日本女子体育大学舞踊学専攻を卒業後、助手として勤務(2018～2021年)。2021年4月にprecogに入社し、アーティストプロデューサー事業部を経て、THEATRE for ALL事業部に所属。まるっとみんなで映画祭、日中韓芸術祭2021 in Kitakyushu(文化庁主催)、TRANSLATION for ALL2023、EPAD×THATRE for ALLなどの事業を担当。

企画実践編

上映会 9/27 金
15:00 上映開始
(14:30 受付・開場)

障害のある人の創作活動の現場で起こる実態とその創作環境、周囲の関わり方、障害のある人が表現にかける思いについて、ドキュメント映画を通じて学ぶ上映会。上映後、鑑賞して感じたことを言葉にして、一緒に映画を観ていた人の意見に耳を傾けることで、視野をひろげる参加者同士の交流プログラムを実施します。

※上映終了後、ダンスカンパニーMi-Mi-Biによるショートパフォーマンス(30分程度)と交流プログラム(2時間程度)を実施。
※途中休憩を含め、全プログラム19:00終了予定。
※交流プログラムは参加人数に限りがございます。

会場 | 神戸文化ホール 中ホール
(兵庫県神戸市中央区楠町4丁目2-2)
<https://www.kobe-bunka.jp/hall/>

アクセシビリティ |
上映作品 | 音声ガイド・バリアフリー日本語字幕付き
交流プログラム | 手話通訳あり

上映作品 2022年 / 67分

旅する身体 ～ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi～

出演 | ダンスカンパニー Mi-Mi-Bi
(内田結花、KAZUKI、武内美津子、福角幸子、福角宣弘、三田宏美、森田かずよ)

監督 | 渡辺匠、志子田勇



身体的特徴も個性もバラバラ。Mi-Mi-Biの身体を巡る旅「なまじ、ここまで生きて来たんじゃない。私もそのチャンス掴みたい」神戸市新長田。駅から続くアーケード街の一角にある席数120の小劇場で新たなダンスカンパニー『Mi-Mi-Bi(みみび)』が誕生した。聴覚、視覚、身体に特徴を持つ個性豊かな7人のメンバーで構成される、Mi-Mi-Biが豊岡演劇祭でデビューを飾る。身体的特徴も個性もバラバラのMi-Mi-Biが届ける『身体を巡る旅』にカメラが密着した。

※[ショートパフォーマンス] 上映後、上映する映画に出演するダンスカンパニー「Mi-Mi-Bi」によるパフォーマンスを上演します。(上演時間:30分予定) ※映画出演メンバーとは異なります
※[交流プログラム] 映画とパフォーマンスを鑑賞して感じたことを言葉にして、一緒に鑑賞していた人達の感想に耳を傾ける参加者同士の交流会ワークショップを行います。(所要時間:2時間予定)
※参加人数に限りがございます。要予約・先着順。

「障害のある人と考える」とは、ということなのでしょうか？ 舞台芸術表現を通して障害の有無に関わらず地域と密接に関わる事業を展開する劇場や団体、地域とつながるために舞台芸術表現や芸術的な視点を取り入れる福祉団体など、地域の状況によって、そのアプローチの方法はさまざまです。企画実践編では、入門編の受講と並行し、3施設への視察研修を行い、舞台芸術表現のひらき方や地域との繋がり方を学びます。また、グループワークによる企画提案では、自身の活動や活動する地域にあったアプローチを受講生や障害のある人との対話によって模索し、実践します。

応募締め切り | 2024年9月8日 日 24:00

対象 | 舞台芸術にかかわる劇場・文化施設職員の企画者、舞台芸術団体制作者、アーティスト等

定員 | 15～20人程度 ※応募者が定員を超えた場合、選考あり。

料金 | 15,000円 ※入門編オンライン講座・上映会参加料込 ※交通費補助あり、上限40,000円(※支給規定あり)

応募条件 | ・日本語でのメールでのやりとりが可能な方
・視察研修に1ヶ所以上参加ができる方
・2025年1月27日[月]に中央区文化センター(神戸)で実施する企画発表会に参加できる方

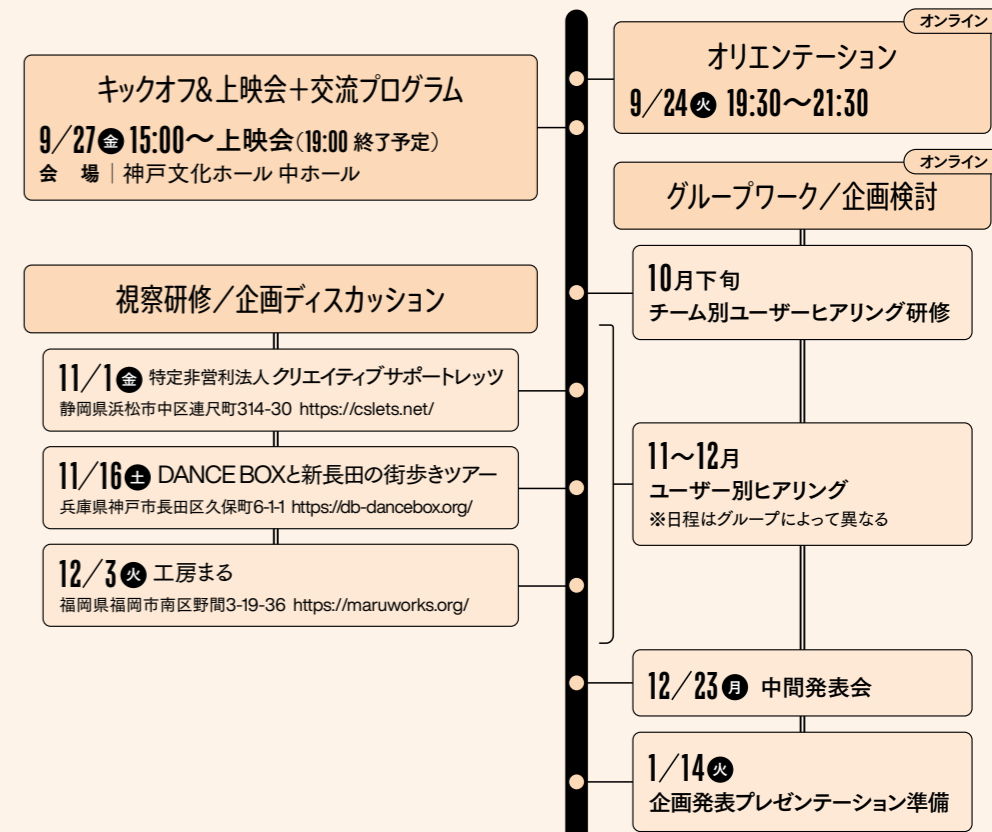
アクセシビリティ | 手話通訳を必要とする方がいらっしゃいましたら、可能な限り手話通訳者を手配いたします。必要な方は応募時のアンケートにご記入ください。

企画実践編申込み
下記QRより
お申し込みください



プログラム内容

3～4人組のチームに別れ、1月の企画発表に向けてグループワークを行います。視察研修での経験も活かしながら、企画をブラッシュアップします。



企画発表会 2025/1/27 月 会場 | 中央区文化センター(神戸)

受講生企画監修

長津 結一郎 大学院芸術工学研究院准教授

文 NPO法人DANCE BOX 事務局長 / 「こんにちは、共生社会(ごちゃごちゃのゴチャゴチャ)」プロジェクト・チーフ



長津 結一郎 Yuichiro Nagatsu
多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走/伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。障がいをもつ人や国籍の違う人・地域の人とつくる表現活動に着目した研究を行っているほか、ワークショップに関する教育、演劇・ダンスのマネジメントやプロデュースにも関わる。著書に「舞台の上の障害者：境界から生まれる表現」(九州大学出版会、2018年)



文 Aya
神戸・新長田の劇場「ArtTheater dB KOBE」を拠点に、コンテンポラリーダンスのアーティストの育成事業や、障がいをもつ人や国籍の違う人・地域の人とつくる事業を展開。ダンスと身体、表現と社会、人と地域と劇場が出会い拡張する現場を考え続けている。障害者との活動は、「循環プロジェクト」(~2012)を経て、現在はダンスカンパニー「Mi-Mi-Bi」「やさしいコンテンポラリーダンスクラス」にも伴走中。